

みとや世代間交流施設「ほほ笑み」を活用した世代間交流施設事業（2年目）
～「消えてたまるか!」「地域づくりは人づくり」の思いで挑戦しています～
雲南市 三刀屋地区まちづくり協議会

1 三刀屋地区の概要

雲南市のほぼ中央に位置し、三刀屋インターチェンジ付近の商業エリアと旧市街地エリアの2つに分かれている。旧市街地には、三刀屋川両岸約3キロにわたる「桜並木」（緑の桜「御衣黄」が有名）、「三刀屋天満宮」、「平和を」を世界に訴え続けた偉人の「永井隆記念館」などがある。

人口：2,603人 世帯数：1,040世帯

高齢化率：30.3パーセント

学校等：保育所、中学校、高校

2 事業の趣旨

地域活性化の小さな拠点として地域自主組織「三刀屋地区まちづくり協議会」、就労支援A型事業所「エコカレッジ」訪問看護ステーション「コミケア」の3者が共同運営する『みとや世代間交流施設「ほほ笑み」』を核とした取り組みにより、地域の若者（小・中・高校生）の地域活動への参画と地域住民の居場所づくりを目指す。

【取組方針】

地域づくりは人づくりと位置づけ、「ほほ笑み」を活動拠点にキャリア教育を意識した取り組みを柱とした。

- (1) 三刀屋高校の学習支援
- (2) 小中学生を対象とした学習会開催
- (3) **小中高**高校生と高齢者、大学生との世代間交流

3 具体的の取り組み内容

- (1) 三刀屋高校生との交流
三刀屋高校で、地域づくりに関心のある生徒に地域課題について説明
- (2) 小中学生を対象とした学習会開催
夏休み・冬休み学習 in ほほ笑み
- (3) 三刀屋高校生8名が小学生のサマーキャンプスタッフとしてに参加
- (4) 大学生の研究支援
中山間地域フィールドワーク支援

(5) 「ミトヤ未来図2117」プロジェクト

小学校保護者や市役所職員へのアンケート、高校生によるサロンや地元事業主の協力で「ミトヤ未来図2117」作図、披露に併せて、小学生による「こどもふろしき市」開店、売り上げの半分を雲南市に寄贈

(6) 三刀屋高校生自主企画

- ・缶バッチと七夕飾り作り
(三刀屋高校美術部協力)
- ・バレンタインチョコ作り (3歳～高校生)
(大東高校生活科学部の生徒5名による指導)





4. 評価と成果

「ほほ笑み」を拠点に事業を行ったことで、地域住民が集まり、若者との交流や在住外国人の目線で地域の良さを伝えてもらうことができ、地元の魅力を再確認できた。

また、子育て世代にアンケートを行ったことで、若い世代の思いや課題に気づいた。

学習会では、教員OBから継続した支援を得られることになり、今後も夏、冬、春休みに実施できるようになった。

「ミトヤ未来2117」の発表に併せて市民歳末余芸大会の会場で、小学生による「こどもふろしき市」を開催し、売上げの半分を永井隆記念館図書室の図書購入費に充てていただくことになり、今後の事業継続に励みになった。



5. 今後の課題と見通し

今後も継続して「ほほ笑み」を拠点にした交流事業について、地域住民と中・高校生とを抱き込んだ企画を考えていきたい。

買物弱者への対応策を見出すなど、アンケートにより見えてきた課題については、今後検討したい。

文責：三刀屋地区まちづくり協議会
集落支援員 倉内敦子

